

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100251		
法人名	株式会社ふれあい介護センター		
事業所名	グループホームふれあい楚辺		
所在地	沖縄県那覇市楚辺2丁目30番2号		
自己評価作成日	平成 25 年11月11日	評価結果市町村受理日	平成26年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4790100251-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェンツ
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成25年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家庭的でぬくもりある環境を作ります」という事業所理念を掲げ、民家を改築し家庭的な雰囲気を残し、中庭から日差しを取り入れることで、その日の天気や四季を感じて頂けるような環境作り心がけています。入居者各々がこれまで営んできた生活を大切に、職員のペースを押し付けず、ご本人の意向を大切に「職員自ら受けたいと思うケア」を常に念頭におきながら、個々の要望に添った支援が出来るよう、日々のケアに取り組んでいます。又、職員の認知症への理解と知識が大切であると考え、法人研修、外部研修、沖縄県グループホーム連絡会主催の研修への参加、そして那覇地区で認知症の勉強会を立ち上げ、他職種との連携にも努め、認知症の正しい知識を持った職員育成に力を入れています。認知症介護には地域の方の力も重要と考え「認知症サポーター養成講座」を行い、地域で認知症の方を支えられるような取り組みも行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一軒家を改修し家庭的な雰囲気の中、入居者が落ち着いて生活できるような環境となっている。中庭ではゴーヤやパパイヤを植えて収穫期には食材として献立に組み入れている。地域住民を対象とした認知症サポーター養成講座を開催し認知症に対する理解への啓蒙に取り組んでいる。理念に基づき一人一人の個性を大事にして本人のペースに合わせた取り組みを実践している。職員は法人研修委員会による研修計画に基づき内部及び外部研修に参加し認知症ケアサービスの向上に努力している。介護福祉士等の資格取得に対する手当が法人より支給され職員の働く意欲へと繋がっている。医師・薬剤師・看護師等の訪問により入居者が安心して生活できるように各々の専門領域からの助言を受けて健康管理が図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成26年1月7日

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所当時に職員で作成した理念を玄関に掲示する事で、毎日の出勤時に意識付けをしたり、新人職員には理念を配布し、一人ひとりの尊重・尊厳を大切に、安心して過ごして頂けるよう、理念に則したケアが出来るよう努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえ、開設時に職員間で話し合い作成した理念を継続して掲げている。理念に基づき一人一人の個性を大事にして本人のペースに合わせた取り組みを実践している。職員は玄関に掲示している理念を確認してから勤務に入っている。ホーム便りにも理念を掲載し広く事業所の考えを地域等に啓蒙している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域行事へ参加したり、地域小学校の運動会参加や、ヤクルトの販売受け入れ、福祉作業所の新聞回収、また日々の買い物は入居者と共に近隣スーパーへ出向き、地域の一員として日々の生活が送れるよう支援している。	町内会主催のバーベキュー、地元小学校の運動会、地域の乳酸飲料販売の訪問、福祉作業所による古紙回収、スーパーへの買い物等地域の一員として積極的に地域住民と交流している。入居者が安心して暮らしていけるよう、ホーム便りを民生委員や乳酸飲料販売訪問員等へ手渡し普段の暮らしぶりを伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が認知症キャラバンメイトとして、地域の方向けに認知症サポーター養成講座を開催し、認知症への理解を広める活動を行っている。又、県認知症家族会の世話人として、定期的に家族会の開催を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催し、行事の報告や、ヒヤリハットの報告、職員が参加した勉強会の報告等行っている。意見を頂いた際には、ミーティングの場で話し合い、改善に向け取り組んでいる。参加者からは、地域行事の情報も頂き、活動に繋がっている。	入居者・家族・民生委員・行政職員参加のもと2か月に1回定期的に会議を開催し、介護事故・ヒヤリハット・外部評価結果・地域との交流等を報告している。委員からの意見を受け、今年度事業所の看板を設置したことで地域住民の訪問を受ける機会が増えた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議による市担当者への状況報告や、那覇市グループホーム連絡会へ市職員にも参加して頂いている。また、地域包括支援センターから認知症サポーター養成講座の依頼を受け開催している。	管理者は市グループホーム連絡会の世話役として行政担当者と顔馴染みの関係が築かれている。現在担当課が市内GH空所状況の窓口となっている。行政の要請を受けコンビニエンスストア職員等を対象とした認知症サポーター養成講座を開催している。今年度より包括支援センターが各地区ごとに委託され、新しいセンター職員との協力関係が課題となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関のカギは施錠せず、ご家族も面会しやすい環境作りをしている。また、外出や買い物等、ご本人の意向を取り入れることで、身体拘束をしない支援を心がけている。	毎年法人で実施している身体拘束に関する研修に職員が参加している。玄関の鍵は、入居者がいつでも外に出かけられるよう夜間を除いて、開けている。現在身体拘束をしている人はいない。家族に対しては契約時にリスクについて口頭で説明している。家族の了解を得て現在センサーマットを夜間使用している方が1名見られる。	

沖縄県(グループホームふれあい楚辺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修で虐待防止について学ぶ機会を持ち、日々のケアの中でも話し合う機会を適宜設けている。身体的のみならず、言葉での虐待についても防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修で権利擁護について学ぶ機会を持ち、制度を理解できるよう取り組んでいる。成年後見人制度を利用している方は、後見人と電話や面会時に話し合いの機会を持ち支援を進めている。金銭管理の困難な方には、社協の金銭管理事業を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、ご家族に理解出来るよう説明を行い、料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応方針、医療連携体制についても詳しく説明し、同意を得るように努めている。制度変更時も同様に改正の説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にはご家族の代表者や入居者にも参加して頂き意見を伺っている。ご家族来所時には全職員で入居者の日頃の状態や状況を説明出来るよう関係作りに取り組んでいる。要望があった際にはミーティングなどで職員と改善に向けた話し合いを行っている。	家族とはこれまでの長い関わりの中で顔馴染みの関係が築かれている。面会時やクリスマス会・年末大掃除等行事の時に直接職員へ意見を挙げてもらっている。入居者からはサービス担当者会議以外に居室内で個別に職員が意見を聞いている。入居者の意見を受けソファの位置を変えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のミーティングや、日々の業務の中で意見を聞けるよう心がけ、必要に応じて面談も取り入れ改善に取り組んでいる。	毎月定期的に行っている職員ミーティング・ケアカンファレンスにおいて職員から意見を提起してもらっている。契約更新時には個人面談を実施して異動の希望等を聞いている。職員は法人研修委員会による研修計画に基づき内部及び外部研修に参加している。介護福祉士等の資格取得に対する手当てが法人より支給される。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約社員から、正社員への登用や、有資格者への手当、資格試験合格時の受講料支給制度など行っている。また、個々の能力に応じて昇給も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法人研修は出来るだけ参加できるよう、同じ内容を2回行っている。教育委員会を立ち上げ、年間の研修内容を作成する事で、計画的に職員がスキルアップできる環境を作っている。また、法人外研修にも積極的に参加出来るよう、配慮している。		

沖縄県(グループホームふれあい楚辺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県のグループホーム連絡会に加盟し、管理者会議や、職員研修を通じて、他事業所と交流を持てるよう努めている。法人内でも敬老会や花火大会を合同で開催し、グループホーム以外のサービスを知る事で質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用について相談があった際は、必ずご本人に会い、心身の状態や、ご本人の想い、意向などを伺い、ご本人が安心して利用できる関係作りに励んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用について相談があった際は、必ずご家族と面談し、困っている事や今後利用するにあたっての不安等を確認し、現在必要なサービスはなにかを話し合い、他のサービスも含め検討している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にはご本人や、ご家族の想いを確認し、今必要なサービスを、他のサービスも含め検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たないよう心がけ、安心して近くで寄り添い合える関係作りを目指し、入居者と職員が協力しながら、自分らしく人生を送れるような場面作りや、声かけを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時や家族会開催時に入居者の日々の様子を伝えることで、職員とご家族が同じような状態の把握が出来るよう努めている。また、面会に見えないご家族には定期的に手紙で日々の様子を伝えることで、関係が継続するよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前に入所されていた方の施設へ訪問、ご家族のお店などへ出向き、関係が継続するよう支援している。離島出身の方は電話を自由に使用する事で、馴染みの人との関係を継続している。	以前入居していた方が現在生活している施設を訪問したり、知人からの電話を取り次いだり、出身地の祭りに参加してこれまでの馴染みの関係が途切れないよう支援している。これまでの入居者の馴染みの人や場所に関する情報は主に家族から聞き取っている。	

沖縄県(グループホームふれあい楚辺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者との関わりが苦手な方には個別で支援したり、みんなで外出するなど孤立しないような支援をしている。、時には入居者に他の入居者の入浴声かけや食事の促しをしてもらうなど、職員、入居者が共に支え合える雰囲気作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、その後の支援体制について関係者に情報提供を行い、話し合う機会を設けている。退所後も、ご家族と必要に応じて相談や支援に努め、施設にて関係作りが出来ていた入居者同士の面会の支援も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望される時間に食事を提供したり、食べたいものの要望、外出希望など、日常会話に出てくるご本人の想いを大切にしながら活動をサポートしている。自発的な発言が困難な方には、仕草や動きなどで判断し、職員が情報共有できるようにカンファレンスを定期的に行なっている。	口頭で意思表示出来る入居者には、食べたいものや行きたい場所等直接本人から希望を聞いている。意思表示の難しい方に対しては家族等からの情報を得て本人の表情やしぐさからその意向を職員間で共有し検討している。利用者から「家族に会いたい」との希望には、家族に電話をかける等支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の入居以前の生活歴の把握に努め、ご本人や、ご家族との会話から出てきた事柄などもその都度追記し、職員が把握しやすいように個人ファイルに綴っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや介護記録、定期的なカンファレンスを通じて、一人ひとりの心身の状態や残存機能の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当職員がモニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。担当者会議にはご本人も参加して頂き、ご家族や担当医、薬剤師からは訪問時に意見を伺うようにしている。日々の介護記録には個別の計画が記されており、職員は毎日計画に沿った支援が行えるよう努めている。	モニタリングはケアカンファレンスの機会も含めて3か月ごとに職員間で見直している。短期目標と支援サービス内容が連動できるよう介護記録様式に落とし込まれている。アセスメントから評価までの一連のマネジメント業務が適切に遂行されている。担当者会議に入居者本人と担当職員が参加しているが家族の参加が見られない。	サービス担当者会議の参加を家族へ促し、これまでの入居者の馴染みの人や場所に関する情報の把握や家族の思いを伝えてもらう機会として積極的に活かしていくよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は1日分の個別記録に記録し、申し送りや管理日誌などで情報の共有を行い、介護計画の見直しに活かせるよう努めている。		

沖縄県(グループホームふれあい楚辺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診へ同行できないご家族の代行や、入院時の対応、理容師資格を持っている職員の散髪支援、ご本人希望先のドライブや嗜好品の買い物への付添など、その時々要望に応えられる支援が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて民生員や役所の職員から情報を得たり、福祉施設による古新聞の回収、ヤクルトの販売受け入れなど地域資源の活用にも努めている。また、管理者は那覇市協働大使として協働の街づくりに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関からの定期的な往診を中心に行っているが、ご家族や、ご本人の意向を最優先にし、これまでのかかりつけ医を希望される方には、継続できるよう支援している。往診医や薬剤師とは24時間連絡が取れ、緊急時の指示ももらえるよう連携を図っている。	定期受診は入居者、家族の希望でかかりつけ医を継続している。情報提供は書面で行い、受診後は家族より口頭で情報を得ている。6名は協力医療機関による月2回の訪問診療を受け、返書は家族にも配付し、情報共有している。薬剤師とは、服薬管理、服薬の助言を受ける等連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の訪問看護ステーションに委託し、毎週訪問してもらうことで、日々の状態報告や、相談、助言をして頂いている。提携医療機関の看護師な為、入居者の状態変化をいち早く察知でき、早期に適切な対応ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関にはその都度情報提供を行っており、主治医とも連携を図りながら迅速な対応が行えるような体制を整えている。入院した際には地域医療連携室とも情報を共有し、早期退院に繋げられるよう関係作りを図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期のあり方についてご家族に意向を伺い、事業所で終末期ケアが出来る旨を説明している。重度化した際には、適宜ご家族と話し合いの場を持ち、担当医や職員と共に方向性の話し合いを行うことで、状態変化時の対応など希望通りに支援が出来るよう努めている。	重度化や終末期について本人や家族の希望があれば、「看取り契約書」を交わし支援する方針としている。現在、希望されている方や状態変化のある利用者について、家族、管理者、主治医と話し合いが行なわれ、急変時の対応等を確認している。今後は、勉強会を通して職員の理解を深めたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修にて、看護師より急変時の対応、処置について学ぶ機会を設けている。また、消防隊員による救命救急法を定期的に学ぶことで、実践力を身につけられるよう心掛けている。		

沖縄県(グループホームふれあい楚辺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合訓練を年2回、昼夜と行っている。屋は大地震発生後の火災を想定した避難訓練を行い、夜間は実際に日が暮れて、夜勤体制時を想定して行っている。近隣住民には事業所新聞などで告知を行っているが、協力体制の構築には至っていない。	4月に消防用設備点検を受けている。年2回(5月に夜勤想定と11月に地震発生後の火災を想定)自主訓練にて、避難経路、避難場所の確認を行っている。近隣住民へ「ホーム便り」にて、訓練参加の呼び掛けは行っているが、参加には至っていない。備品や備蓄の準備もこれからの課題である。	年2回自主訓練は行われているが、今後は、消防署の立ち会いの下訓練の実施、事業所が住宅密集地にあることから近隣住民の協力は必須である。協力体制作りを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人研修にて、接遇や高齢者疑似体験を学ぶことで、入居者の身体的特徴を捉えた声掛けを行い、自己決定しやすい環境、関係作りにも努めている。入浴は同性介助を出来るだけ行うよう努め、プライバシー保護に配慮している。	職員は、研修会にて、「接遇・マナー」「高齢者疑似体験」を継続して受けている。声かけの方法や行動を起こす前に、必ず説明をして対応するなど基本的なケアの方法を学んでいる。洗濯たたみや食材の下ごしらえ等、利用者の日々の習慣や残存能力が発揮できる場を提供している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「待つ姿勢」「今、何を求めているかを理解する」を念頭に置きながら日々のケアに努め、ご本人が想いを表現したり、自己決定がしやすい支援を行うよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースにならないよう意識し、ご本人がその日何が見たいか確認しながら、自己決定が出来るよう働きかけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまでに培ってきたスタイルを大事にし、行きつけの美容室でのカットや、理容資格のある職員による散髪、染髪も行っている。化粧やマニキュアなど個々の要望に沿った支援を行い、花火大会の時には浴衣を着て雰囲気味わって頂けるような支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じた配膳や片付けを、声かけすると積極的に行って下さる方もいらっしゃる。食事メニューは入居者の希望を取り入れ、買い物の際に夕飯の献立を考えて頂く時もある。主食はご飯やアチビー、食パンなど好みに応じて提供している。	平日の昼間は、法人の配食を受けている。朝食、夕食、休日は、事業所で職員が調理している。メニューは利用者の希望も取り入れ、週3回食材の購入に出かけている。利用者は、配膳、食器洗いや食器拭き、味見係りなどに参加している。職員も同じテーブルと一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	屋食は栄養士が作成した食事の提供をおこなっている。朝・夕は職員と入居者が立てた献立での提供だが、好みに応じてパン食を提供したり、個別での対応や希望に応じた献立変更もしている。食事量や水分量はその都度記録し、摂取状況の把握に努めている。		

沖縄県(グループホームふれあい楚辺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、うがいの声かけをし、能力に応じた介助を行っている。義歯使用の方も、出来るところはなるべくご自身で行って頂けるよう、支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、ご本人からの訴えだけでなく、入居者の様子や仕草から察知し、トイレでの排泄ができるよう支援している。また、日中はなるべく布パンツで過ごして頂けるよう、排泄パターンの把握に努めている。	入居者の排泄状況をチェック表で管理し、個別計画に沿って支援し、日中殆どの入居者はトイレ誘導を行い自立に向けた支援を行っている。排泄の確認は、羞恥心等を配慮しながら、さり気なく声かけし把握している。排便のコントロールは薬剤師と相談しながら行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自尊心に配慮し、ご本人からの訴えだけでなく、入居者の様子や仕草から察知し、トイレでの排泄ができるよう支援している。10時、15時とお茶の時間を設け、好きな物を飲んでいただく事で水分補給に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望に合わせた入浴支援を心がけ、時間帯も自由になっている。入浴剤を使った入浴や、足浴、同姓介助など、ご本人の要望に合わせた支援をすることで、安心して心地よい時間を過ごして頂けるよう努めている。	入浴は毎日、入居者一人ひとりの希望に沿って行っている。毎回浴槽に入る方は、入浴剤を使用するなど楽しみとなっている。冬場の脱衣室は、ヒーターを使用する等配慮している。2名の方は、入浴日以外、足浴を行う等清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に1日の過ごし方は入居者の生活リズムで過ごして頂いているが、その中にレクや家事活動を取り入れ、日中活動的に過ごして頂く事で、眠剤を使用せず就寝出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個別の処方箋をファイルに綴り、すぐに確認できる処に置いている。受診や往診後には申し送りを行い、変更した処方箋の確認を行えるようにしている。また、薬剤師からの薬学的管理指導計画を受けており、職員への指導や助言がいつでも受けられるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	DVD観賞や、園芸活動、ドライブ、買い物、レク活動など、入居者の要望や生活歴に応じて気分転換ができ、楽しみのある生活が送れるよう努めている。家事活動も役割を決めたわけではないが、生活の中で自然と役割分担ができてきて、個々のペースで行っている。		

沖縄県(グループホームふれあい楚辺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出行事や、希望時にはドライブに行ったり、買い物の同行など、いつでも外出できる環境作りに努めている。休日にはご家族がご自宅に連れて行ったり、職員の手が必要な際には、同行し、ご家族と一緒に帰宅支援を行っている。	配食の受け取りや買い物(食材、日用品等)の購入を外出する機会としている。法人の花火大会へは、浴衣を着て利用者も参加している。桜祭りや初詣等季節の行事に出かけている。「空港を見てみたい」と入居者の言葉から、ゆいレールに乗って空港見学に出かける等普段行けない場所への外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方には、個人で所有して頂き、買い物を希望される際には一緒に同行し、ご本人が支払いできるよう支援している。自己管理が困難な方は、事業所で管理し、買い物時使用して頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に電話の使用は自由に行って頂いている。電話の使用が困難な方からの希望には、出来ないところは職員が支援し対応している。正月には年賀状の支援も行い、ポストへの投函は一緒に行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節を感じて頂けるような飾りをし、一般住宅の特徴を活かし、庭からの風や光を程良く感じて頂けるよう、室内環境を整えている。共有空間にはオープンキッチンで、入居者と職員と一緒に食事作りやおやつ作りが出来るようになっている。	民家を改築して利用しているため、収納スペースが無く困っていたが、屋上にプレハブを設置した事で、解消している。居間にクリスマスツリーを飾る等で季節を表している。食堂や居間から眺められる中庭には、ゴーヤー等を植え収穫を楽しみにしている。入居者は日中お気に入りのソファでテレビを見る等して過ごしている様子が確認できた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階には幾つかのソファを置く事で、気の合う方同士で会話を楽しめたり、休みたい時に気軽に昼寝が出来るような空間作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には馴染みの物や、好みの物を持ってきて頂けるよう、ご家族に声かけしている。ご本人の希望や状態に合わせ、ご自宅で使用していた敷布や毛布、時計や椅子、三線、仏壇など持ち込んで頂き、ご本人にとって居心地のいい空間作りになるよう努めている。	居室は1階に6室と2階に3室あり、入居者の馴染みの時計や収納ボックス、三味線、仏壇などが持ち込まれている。居室の清掃や週1回のシーツ交換を職員と一緒に入居者もいる。家具は入居者の状態に合わせて配置を工夫し、壁には家族の写真を飾る等環境作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一般住宅を改築しているため入居者がそれぞれの場所を認識しやすく、自立した生活が送れるようになっている。手引き歩行の方も手すりやテーブルでつかまり歩行が出来るような環境整備を行い、2階に居室がある方は、毎日階段を上り下りすることで、日常的に下肢リハビリになっている。		